



2019

大幸グループCSR報告書

持続可能な環境・社会・経済をつくる！
SUSTAINABILITY REPORT



【お問い合わせ先】
大幸グループ CSR 事務局
〒559-0025 大阪市住之江区平南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

■携帯電話からのアクセス
e-mail: sea-mew@daiko-group.com
右のバーコードを対応端末で読みとっていただければ、
直接サイトにアクセスできます。
<http://www.daiko-group.com/>



CSRを活用し、
ESDを広げよう!



当グループのCSR報告書を教材に、持続可能な開発のための教育 (ESD) をスタート。
国連の SDGs4.7 達成に貢献します。

弊社は暴力団等反社会的勢力との取り引きは一切行いません (ホームページ掲載)

TOP MESSAGE 2019



お客様、地域の皆さまとの信頼関係をさらに強固にすることで、
変革の時代を乗り越けていきます。

処理業から製造業へ。業界の変革が進む

本誌『大幸グループCSR報告書』は、2013年の発刊以来、今回で7年目となります。この間、産業廃棄物処理業界は大きな変革が進んでいます。それまで、発生した廃棄物を適正処理、適正処分をすることが使命だった処理業は、環境意識の高まりの中で、さらに一歩進んだ資源循環型企業への転換が求められています。2018年4月には、業界団体の名称も「公益社団法人 全国産業資源循環連合会」に変更され、文字通り処理業から資源循環で社会に貢献する製造業へと変貌しています。

変革の時代を生き残るために、業界ではM&Aによる企業統合も活発になっています。大幸グループはそうしたM&Aの道に進むのではなく、廃棄物処理法の考え方の原点であるお客様や地域の皆さまとの信頼関係をより一層強めることに力を注いでいきます。

信頼を礎にし、当社グループに欠けている部分、例えば最終処分場やリサイクル製品の販売などについては、他社との提携に積極的に取り組んでいきます。私たちの業界と同じく大きな変革の時代を迎えている自動車業界では、メーカー間の提携がさかんに行われています。世界有数の自動車メーカーでも生き残りをかけた戦略として業務提携を進めているように、私たちも変革の時代には他社との連携・提携は欠かせないと考えています。

需要が高まる流動化処理土「ポリソイル」

製造業として発展していくためには、製品がお客様の期待に応えるものでなければなりません。大幸グループは「リサイクルのパイオニア」として、資源循環に貢献する様々な製品を供給してきました。中でも、近

企業理念

私達は「地球を大切に」という合い言葉のもとに地球環境時代にふさわしい企業をめざしています。リサイクル技術の開発など、産業廃棄物を地球にやさしく還す方法を常に追い求め、この大切な地球環境をすばらしい状態で未来に残したいと心から願う人間の集まりです。



公益社団法人 大阪産業資源循環協会の副会長として、国や行政機関にそのための法制度の整備を要望・提言し、業界全体の発展にも尽力していきます。

持続可能な社会の発展に貢献する

企業にとって最も大切な使命は、従業員とその家族を守るために事業を継続していくことです。私たちが「大幸グループ津波避難ビル兼 車輛センター」の建設を進めているのも、その一環です。この避難ビルは地域の津波避難ビルにもなり、皆さまからは「これがあれば安心」と期待され、地域への貢献も果たします。

事業を継続するためには地域の皆さまの理解と信頼が不可欠ですし、地球環境の保全も欠かせません。大幸グループではSDGs（Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標）に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献し、お客様、地域の皆さまとの信頼関係をさらに強固にすることで、激しい変革の時代を乗り越けていきます。どうか一層のご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

年需要が高まっているのが、流動化処理土「ポリソイル」です。流動化処理土が大きな注目を集めたのが、2016年に発生した博多駅前道路陥没事故の復旧工事です。大規模な地盤崩落事故だったにも関わらず、復旧工事が発生後わずか1週間で完了したことは世界から「日本の奇跡」として称賛されました。その埋め戻しに使われたのが流動化処理土です。

当社の「ポリソイル」も通常の埋め戻しにはもちろん、狭隘な空間や地下の空洞にも対応でき、幅広い工事現場で活用されています。近年、大都市では高度成長期に造られた高層ビルの建て替え工事が増加していますが、その工事の際にも地下水の噴出などの事故を防ぐ地下構造物の埋め戻し材として「ポリソイル」が期待されています。

当社では需要の増加に対応するための生産設備の増強を図るとともに、お客様の多様なニーズに応えられるようさらなる品質の向上に取り組みます。また、資源循環を推進するには都道府県を跨いだリサイクルの市場を構築しなければなりません。私は公益社団法人 全国産業資源循環連合会の理事・建設廃棄物部会長、

大幸工業株式会社 代表取締役
大阪ベントナイト事業協同組合 代表理事

浜野 廣美

環境・社会・ガバナンスの 3点を観点にしたESG 経営を目指して

廃棄物再生処理を含む地盤環境系業界が、持続可能な発展をしていくためには、環境 (Environment)・社会 (Social)・ガバナンス (Governance) の3つの観点 (ESG) が必要とされています。そして、企業が持続的に発展していくためには、利益を出し続けることが必要ですが、一方で、企業が社会において認められることも重要な要素となります。そのためには、普段の経済活動に加えて、CSR (企業の社会的責任) などの活動を行う必要があります。

大幸グループでは、廃棄物再生処理業から製造業に転換するにあたり、ESG に関連付けられた ISO26000 を用いて、国際社会の変化にも配慮しつつ当社が優先的に取り組むべき課題を選定し、CSR 活動を SDGs と関連付けながら ESG 経営を展開していきます。これにより、CSR 活動目標決定のプロセスが、より明確になります。また、活動テーマと目標を、SDGs を活用して再確認できます。

- 1991年 経団連『企業行動憲章』制定
- 1996年 環境マネジメントシステム『ISO14001』制定
- 1997年 環境省『環境報告書作成ガイドライン』策定
- 2000年 CSR 報告基準『GRI ガイドライン』第一版発行
- 2010年 社会的責任の国際ガイドライン『ISO26000』発行
- 2010年 ESG の三点の観点が必要と世界的に広まる
- 2011年 マイケルポーター『CSV (共有価値創造)』発表
- 2015年 国連で持続可能な開発目標 (SDGs) が制定される

国連 SDGs (持続可能な開発目標) とは

2015年9月、全国加盟国 (193カ国) は、より良い未来を実現するために、今後15年をかけて極度の貧困、不平等・不正義をなくし、私たちの地球を守るための計画「アジェンダ2030」を採択しました。

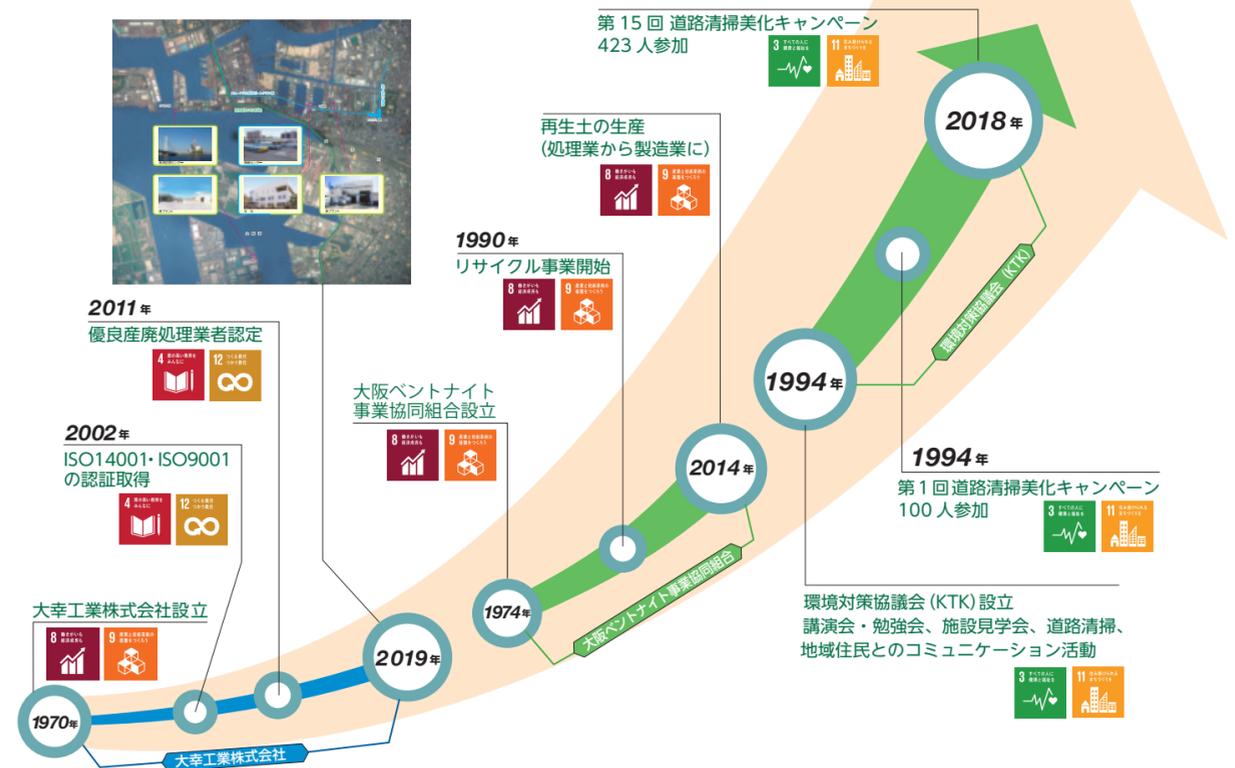
この計画が「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」です。SDGsは、ミレニアム開発目標で十分に手を打てなかった課題に加え、Rio+20で議論された深刻化する環境課題など17の目標と169のターゲットに全世界が取り組むことによって『誰も取り残されない』世界を実現しようという壮大なチャレンジであり、企業や個人にも達成に向けて努めるよう期待されています。



※1: 2000年9月の国連ミレニアム宣言などを基とする「Millennium Development Goals: MDGs」
 ※2: 2012年6月、ブラジルのリオデジャネイロで開かれた「国連持続可能な開発会議」

SDGs を活用し、活動テーマと目標を再確認

大幸グループの企業理念は、長期的に組織として変わることのない、主軸となる価値観です (2ページに全文掲載)。この企業理念を柱とする大幸工業株式会社・大阪ベントナイト事業協同組合の設立から現在に至る歴史、そして、企業理念より派生した大阪ベントナイト事業協同組合 環境対策協議会 (KTK) で実施してきた個々の CSR 活動テーマに対して、SDGs の17目標・169ターゲットを紐づけし、あらためて整理、再確認を行いました。



CSR 報告書の SDGs 学習教材化を新たに提案

2015年にSDGs (持続可能な開発) が国連サミットで採択されました。そして、2019年9月に銀行版PRI「国連責任銀行原則 (PRB)」が発足しました。新たな経営戦略や投資概念の幕開けです。大幸グループでは、環境ビジネスによる社会貢献を提言してまいりました。

そして、廃棄物再生処理を含む地盤環境系の課題に対する共通価値の創造 (CSV) と、SDGs に関わる知識とスキルの向上をめざし、CSR 報告書を SDGs4.7 の教材として活用する教育プログラム (ESD) をスタートしました。



大阪大学 地球総合工学部授業 事例

西日本最大級の津波避難ビル兼 BCP*の中核施設、誕生！

※ BCP= 災害時に事業継続・早期復旧を行うための計画



今後 30 年以内に 80%の確率で起こると言われる南海トラフ巨大地震の津波や、豪雨による大和川の氾濫、堤防内の内水氾濫が予想される大阪市住之江区。災害時に人命と設備を守り、顧客や地域との信頼関係をより強める防災拠点として、「大幸グループ津波避難ビル兼車輛センター」を建設、2019年12月に完成しました。



大型立体駐車場・自家給油所・整備工場・事務所棟で構成され、緊急時には高さ6m以上を避難場所とします。

車イス避難にも優しい車両用スロープ

このほど完成した「大幸グループ津波避難ビル兼 車輛センター（以下「避難ビル）」は、津波などによる浸水時に、従業員と車両および、地域を守る堅牢な防災拠点として機能し、事業継続または早期復旧によって、お客様の事業活動に貢献。被災や経済損失の削減を目指します。

南海トラフ巨大地震が発生すると、住之江区では約5mの津波が110分後に到達すると試算されていますが、小学校等の避難所が遠い地域住民、特に高齢者や障害者などの方々は、避難に時間が掛かると予想されます。「避難ビル」の車両用スロープは、高さ7mの屋上まで続いており、車いす利用者など脆弱な立場にある方々にも避難しやすいバリアフリー型の建物です。



大型車両駐車場の車両用スロープ

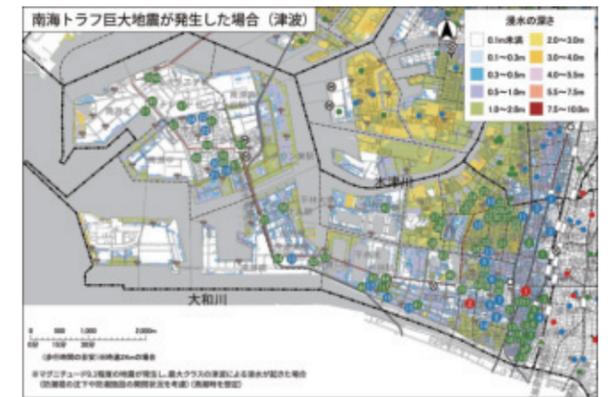


緊急避難時にバリアフリー化を実現する車両用スロープ

大和川が氾濫した場合



南海トラフ巨大地震が発生した場合（津波）



大阪市住之江区ホームページより

立体駐車場の屋上と事務所棟3階に避難

「避難ビル」は、10トン～20トン級の大型車両の車庫および運行管理基地であり、基礎・躯体・スロープなどの設備は、巨大地震に耐えうる頑丈な構造となっています。緊急時は、南海トラフ巨大地震の津波の高さ想定を十分に上回る立体駐車場屋上と、事務所棟3階（高さ6m以上）を津波避難場所として使用する予定で、建物内に車いす対応の個室トイレも設置しています。浸水が長引くことも想定し、非常食や非常用トイレ凝固剤、アルミブランケット、携帯充電器等の用品を備蓄。立体駐車場の車両に機器をつなぐことで電源を確保することも可能です。



津波到達時の仮想イメージ



Reception Room



避難スペース (2)



休憩室

地域資源を活かした 木質バイオマス電力を利用

「避難ビル」では、大阪の森林資源や近畿圏で排出された木質廃棄物由来の燃料による木質バイオマス電力を使用しています。この電力は、再生可能エネルギー源（木質バイオマス）で発電されたFIT電気として、株式会社グリーンパワー大東から購入しています。



自治体・地域との三者協定を締結



津波災害または水害時に、地域の方々が少しでも早く高い場所へ避難できるよう、自治体により一時避難用の「津波避難ビル」（指定緊急避難場所）の登録制度が設けられています。大幸グループの「避難ビル」は、住之江区・地域との三者協定を締結し、津波避難ビルの指定を受けました。

協定締結式は 2019 年 12 月 16 日、西原昇住之江区長、福永政治さざんか平林協議会・会長、浜野廣美大幸工業株式会社代表取締役の三者によって実施されました。



【協定を結んだ三者】左から さざんか平林協議会・会長 福永 政治、大幸工業株式会社代表取締役 浜野 廣美、住之江区長 西原 昇



地域の方々と共にスロープでの避難を体験



協定締結前、地域の皆さんと「避難ビル」を視察

KTK 防災対策実行委員会 第 2 回防災訓練を実施



大阪ベントナイト事業協同組合 環境対策協議会 (KTK) では、避難ビルの建設着手を契機とし、2018 年に「KTK 防災対策実行委員会」を開設。2019 年 9 月 5 日、2 回目となる防災訓練を実施しました。

開催に当たり、浜野廣美代表理事は「緊急時にマニュアル通り行動できるよう高い意識を持ち、訓練に臨みたい」と挨拶。その後、工学博士の水野克己が、通常の海水よりも黒く重い津波の脅威について解説しました。

続いて、大幸グループ緊急時対応マニュアルおよび、大阪府エリア・緊急速報メールの受信設定について説明。各自の携帯に『大阪 880 万人訓練』の緊急速報が入ると、参加者は大幸工業本社から建設中の「避難ビル」屋上まで迅速に避難しました。完成後の 2020 年は、地域住民合同の防災訓練を構想しています。



海上輸送を継続的に導入



大阪ベントナイト事業協同組合の堺プラントでは、気候変動の緩和や軽減を目指し、陸上運送に比べて二酸化炭素の排出を大きく削減できる海上輸送を、平成 20 年から継続的に採用。また、環境保全を目的に設けた積み替え保管倉庫にはソーラーパネルを設置し、電力の一部をまかっています。

ダンプに比べ CO₂ を 25%削減

堺プラントは、産業廃棄物の中間処理およびリサイクル (CSV 事業としての流動化処理土「ポリソイル」製造など) を行い、搬出の海上輸送基地としての役割をも果たしています。海上輸送では、ダンプによる陸上輸送に比較し、二酸化炭素排出量を約 25%削減でき、年間約 160 トン分の輸送エネルギーを削減することができます。



微粉の飛散防止と太陽光発電

微粉の飛散防止など、環境保全を目的に設けた積み替え保管倉庫では、コンベヤーを用いて、プライベート・パス（停泊場所）の船舶に積み込みを行っています。また、クリーンエネルギー発電に寄与するため、倉庫の屋上にソーラーパネルを設置しています。



環境学習を柱とする地域活動を展開



環境負荷の少ない廃棄物処理、リサイクルによる資源循環システムの構築により、持続可能な消費と生産のパターン構築を目指す大幸グループ。その事業は地域の理解や信頼を基盤とするものであり、長年にわたり地域貢献活動に努めてきました。今後も、地域における生涯学習の機会提供、とりわけ、持続可能な開発や自然との調和に関する学習活動について、関連企業や行政、地域社会と共に取り組んでいきます。

再生土を利用した寄せ植え教室

大幸グループが製造したエコリサイクル土を用い、地域の方々を対象に寄せ植え教室を開催。持続可能な開発の推進・理解、自然との共生を目的として、住之江区の

林福社会館で 2011 年から毎年開催しており、地域の恒例行事として親しまれています。



懇親会の様子



第 16 回寄せ植え教室



第 17 回寄せ植え教室

「光る泥だんご(SDGs4.7 泥だんご)」教室

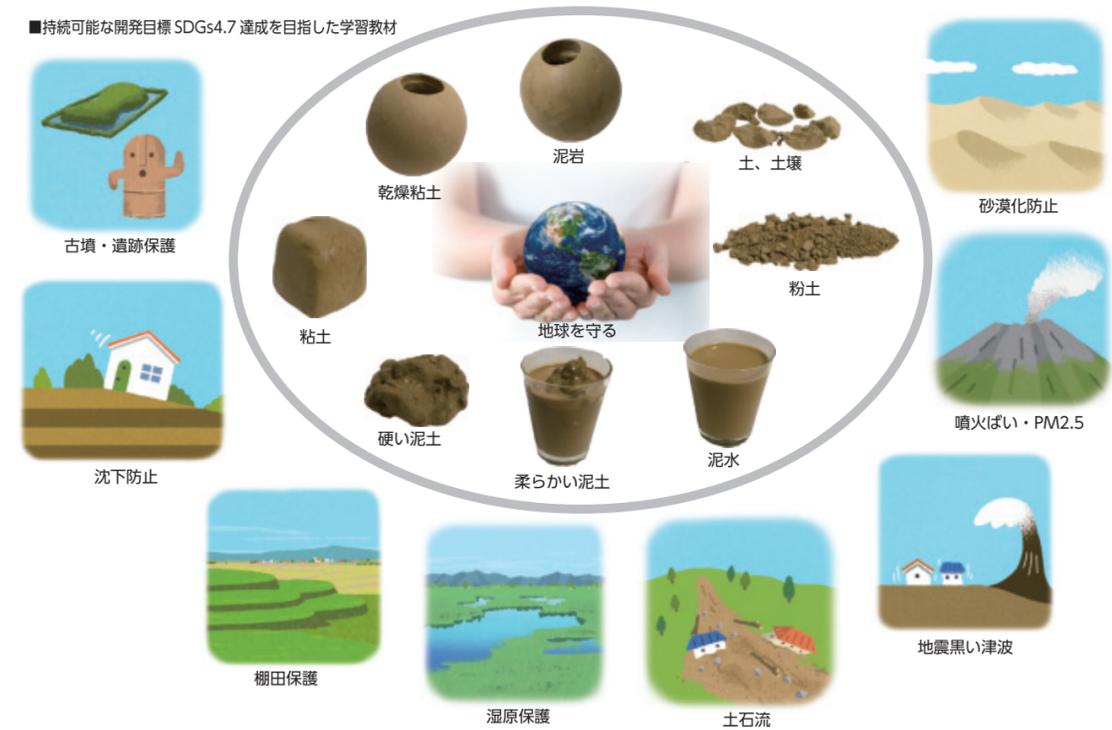
地盤環境問題に気づき、土と泥を体感・礼賛(らいさん)し、「地球を大切に作る心」と「社会に貢献する心」を養うことは、持続可能な開発(SDGs)を促進するために必要な知識とスキルです。

大幸グループでは、学習教材として「光る泥だんご」を開発しました。乾燥させた泥だんごを水に 10 分間浸け、両手で 5 分間なでて表面を生乾き状態にすると、ガラスで磨くことができるため、誰もが簡単に「光る

泥だんご」を体験することができます。泥だんごをもう一度、水に浸け、同様の手順を踏めば「光る泥だんご」が再び完成します。

このため、防災教育や廃棄物再生利用といった地盤環境問題などの学習教材として活用できます。「光る泥だんご」教室は 2019 年度にスタートし、半年間で延べ 300 人以上が参加しました。

■持続可能な開発目標 SDGs4.7 達成を目指した学習教材



「ひら子屋」(大阪市住之江区)



大阪大学 SEEDS プログラム(吹田市)



大幸工業(大阪市住之江区)



大幸環境グループとのコラボレーションで参加した「2019 みなはつフェスティバル」(和泉市)



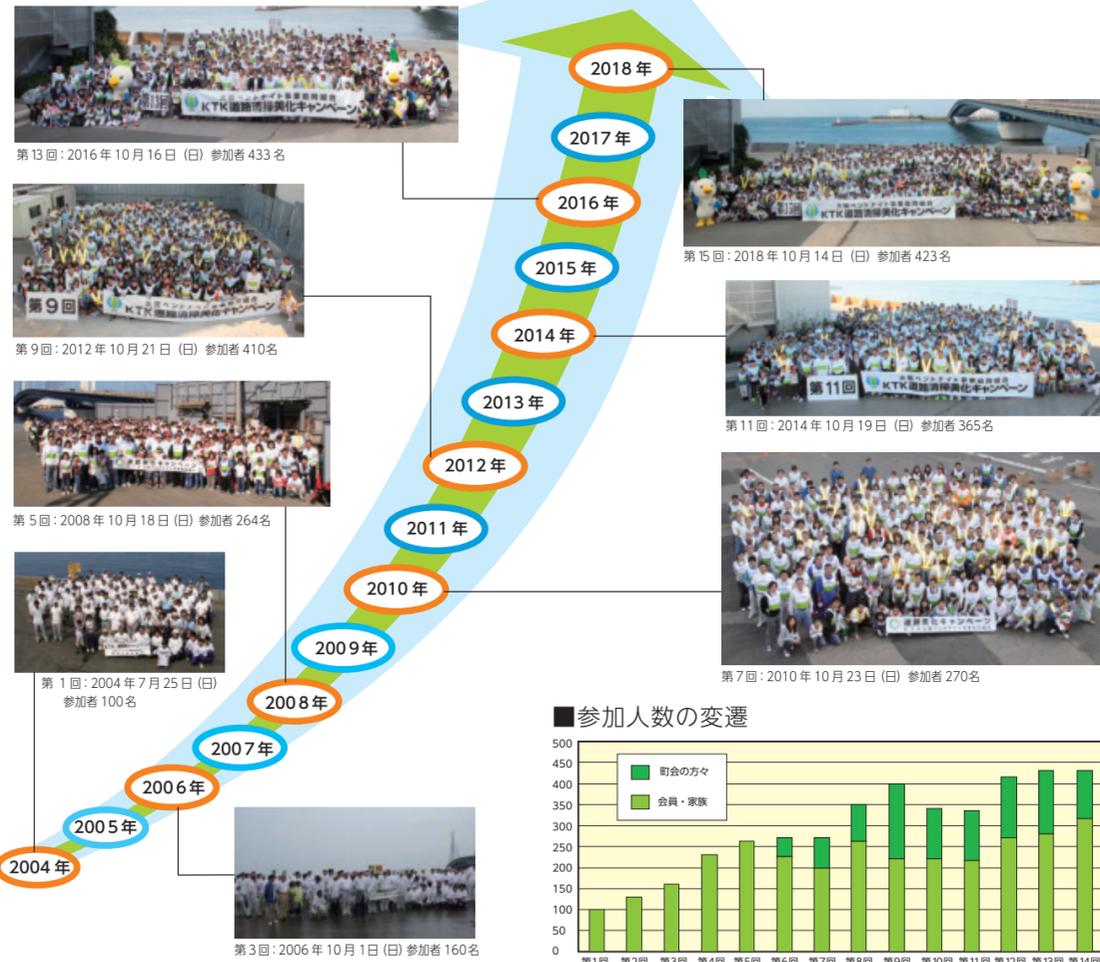
安心してずっと暮らせるまち 美しく清潔なまちを目指して



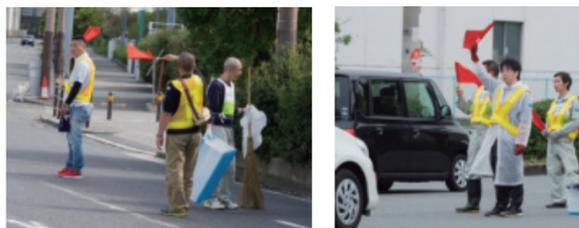
KTK 道路清掃美化キャンペーン

大幸グループが中心となって取り組んでいる KTK 道路清掃美化キャンペーン（環境対策協議会（KTK）主催）は、安全で持続可能なまちづくりに貢献すると共に、子どもたちを含む地域全体の生涯学習の場となっています。2004年（平成16年）にスタートし、年々参

加者が増加。現在では、大幸工業（株）と KTK 会員企業 50 社の社員・家族に加え、地元町会の方々 100 人以上、自治体各部署、その他賛同者の計 400 人超が集まる大規模な地域イベントに成長しました。ゴミの収集量は、2tトラック 10 台分にのびります。



参加者の増加に伴い、班分け、班ごとの警備責任者および警備人設置、規制車の配備を実施しています。当初は空き缶や煙草の吸い殻が多く、近年はプラスチックゴミが増加しました。



職場体験学習

地域の中学生が、持続可能な経済活動を促進する知識及び技能、質の高い技術教育・職業教育について学び、将来の社会的自立を促すため、2014年より大阪市立新北島中学校の職場体験学習を受け入れています。

参加した中学生は、車輛センターで保有するベッセル車（29台）とダンプ車（4台）について学び、水密性の高いベッセル車は運転の振動で廃棄物の水分が分離してもこぼれないことを確認。また、大型車の死角を学び安全につなげる試乗体験、事務体験などを行い、2日間の日程を終えました。



インターンシップ

未来を担う学生に、大幸グループが取り組む豊かで安全なまちづくりと、環境保全への思いを理解してもらおう機会として、また、実地研修を通じ、技術的・職業的スキルや、働きがいのある職場環境、持続可能な経済成長について学び、考えていただくため、例年インターンシップを受け入れています。

9日間の日程を終えた、近畿大学経営学部キャリアマネジメント学科1年の川端夏葵さんは、「本社・車輛センターの事務だけでなく、各プラントもめぐり、品質を保持する努力や、廃棄物処理に関する規定などを学んだ。本社は私の自宅に近く、環境や地域について考え、将来に活かす貴重な時間となった」と話しています。

を学んだ。本社は私の自宅に近く、環境や地域について考え、将来に活かす貴重な時間となった」と話しています。



盆踊り大会

大幸グループでは、地域文化および芸能文化の伝承と継続、地域交流を目的に、住之江区のさざんか平林協議会主催で毎年開催される盆踊り大会に参加。夜店の運営にも協力し、かき氷や焼きそば屋台のスタッフとして活動し、地域イベントを盛り上げています。



住之江区子ども会育成連合協議会 体育事業後援



地域の子どもの健全なライフスタイル育成、平等で平和な文化の推進を目指し、住之江区子ども会育成連合協議会体育事業に賛同、後援を行っています。同事業は各種目で活発に活動が続けられており、大幸グループもソフトボール大会、キックベースボール大会の開会式などに出席し、子どもたちの健康増進と成長を応援しています



学生と幼児の食育活動に向けた改良土寄付に感謝状



相愛大学人間発達学部へ、2017年に改良土の寄付を行いました。改良土は再利用を目指して製造されており、教師を目指す学生と地元の子供たちが、野菜を栽培する畑の用土として、現在も使用されています。このプログラムは、学生と子供が共に土に触れ、野菜を育て、収穫して食べる、という一連の流れの中で、食育について学ぶもの。プログラムへの理解と改良土寄付に対し、2018年3月、学校法人相愛学園より感謝状を受領しました。



改良土で育てたサツマイモ



相愛学園より感謝状を受領

岬町の教育振興に向け救急用品を寄贈し、感謝状を受領



泉南郡岬町への事務所開設に伴い、当地のスポーツ・文化活動に役立つ外傷用救急箱と応急処置救急セットを寄贈。2019年10月、田代堯町長より「教育振興に寄与されるとともに、生涯教育の新興に多大な貢献をなした」との理由で感謝状を受けました。



一ヶ月の方針を決める合同会議

働きがいのある、安全で健康的な環境づくり



大幸グループでは、環境・社会貢献につながる持続的成長と、人材活性化に向けた組織改革、余暇を楽しみ生産性向上を目指す働き方改革、グループの方向性や情報を共有する意識改革に取り組んでいます。

また、職員の誰もがモチベーションを高め、能力を伸ばし、安全に働ける社内環境づくりを目的に、公平公正な評価・表彰制度、そして教育・福祉制度を設置。グループおよび関連会社との懇親会や定期刊行物の発行を通じ、情報共有と組織力強化を図っています。

グループ内表彰



大幸グループでは、社会と環境に貢献できる、働きがいのある職場づくりを目指して、優良ドライバー表彰制度を設置。2017(平成29)年から「優良従業員表彰」、また2018(平成30)年より、洗車に特別な努力を注いだ「ぴかぴか賞表彰」なども実施

しています。そのほか、永年勤続表彰(10年・20年・30年)の制度を設け、定年退職者に対しては、親睦会より感謝の気持ちを込めて記念品を贈呈。応募コンクールによる安全標語表彰も行っています。

10年勤続表彰



中道 由紀子

優良ドライバー表彰



大手山 徳洋 萩野 光男 北野 真 加井 彰人

ぴかぴか賞表彰



浦部 竜一 柿島 勇夫 中橋 隆博 新宅 正治

優良従業員表彰



田村 悠太 森田 直樹 中戸 久男

定年退職記念品贈呈



上田 忠

安全標語表彰



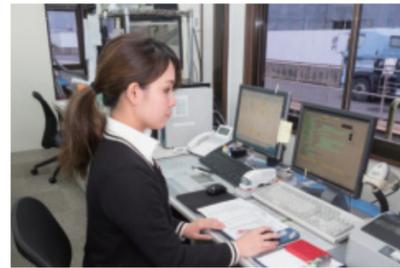
優秀賞 初瀬 和行 最優秀賞 小路 徹



従業員研修

大幸グループでは、入社後 3 カ月間に全部署の業務を学ぶ新入社員研修、管理職による大幸未来育成会をはじめとしたセクションごとの研修、各プラントを統括する視点を育み相互活性化を図るプラント人材交換制度などを通し、各分野の人材育成に尽力しています。また、公正採用選考人権啓発推進員の新任・基礎研修への参加等により公正公平な職場環境を促進。事故情報や課題の共有化によって、より安全な勤務体制と、

風通しのよい環境づくり、一人ひとりの資質向上・成長を目指しています。



資格・免許取得サポート

車輛センターの安全体制の確立を司る運行管理者や、重機オペレーターの各種資格・免許の取得を支援するため、研修への参加費や、資格試験・免許取得に関する費用の負担を実施しています。資格・免許の取得は、業務的な必要性ばかりでなく、個人の技能性を伸ばし、成長を促すため、大幸グループを挙げて推奨しています。



関連企業親睦会

関連企業の交流・懇親を目的とし、例年秋に、大幸グループと協会の従業員約 50 人が一堂に集まる関連企業親睦会を開いています。2019 年 9 月には、焼き肉店で親睦会とくじ引き大会を楽しみました。そのほか、ボウリング大会などのイベントも例年開催しています。こうした機会は、位置的に離れた事業所、組織のスタッフが直接顔を合わせてコミュニケーションを深め、絆を培う機会となっています。



育児・介護休暇

少子高齢化が進み、女性の活躍が期待されるなか、大幸グループは職員のライフサイクル、生活スタイルの多様化に適応し、仕事と家庭生活の両立を支援する育児・介護休暇制度を設置。必要に応じ男女とも制度を利用することができ、職員が安心して就業できる環境の構築と、仕事へのモチベーション維持を図っています。

特に、職場の理解・支援によって制度を取得しやすい環境づくりを推進し、新生児の育児、高齢者の介護、病床にある家族の看護等、個別にヒアリングを実施。正当な理由に基づき、所定時間外労働の免除、深夜業務の制限、時間短縮その他の支援を行っています。



定年後の再雇用・嘱託就業

年金支給開始年齢の引き上げや、労働力不足の問題がクローズアップされる以前から、大幸グループでは再雇用制度を導入。定年後の人材は、技術と知識を伝承し、事業を支える戦力として、社員それぞれの希望を考慮しながら再契約の道を作ってきました。基本的に、定年後の単年契約を 65 歳まで重ねる方式を採用。能力・役割に応じた活躍を期待し、後進へ技能・知識・マンパワーを引き継ぐ基盤づくりに努めています。



健康診断と人間ドック

若年から壮年、熟年に至るすべての職員の健康と福利厚生を推進するため、大幸グループでは健康診断(特定健診・特定保健指導)に加え、人間ドックの利用促進にも力を注いでいます。これらは、疾病・潜在疾患の早期発見、予防、適切な治療への導線となるものです。人間ドックは、職員の高額負担抑制に向け大部分を補助し、気軽に利用できる体制を整えています。

また、働き方改革の一環として、有給休暇の取得しやすい環境づくりを促進し、有意義な休暇と休息による心身の健康増進と、生産効率の向上を目指しています。



大幸グループ通信

大幸グループ全体の情報共有を目的とした情報誌を、隔月サイクルで刊行しています。掲載内容は、私たちの関わる環境事業の現況と今後の方向性、地域の情報、行政の指導や指針の紹介、関連企業の最新情報などについて。すべてのスタッフと、その家族に向けて、環境事業内容と目指すベクトルについて広報を行い、グループ・関連企業の一体化と環境啓発に努めています。





持続可能な開発に向け、 情報や課題を共有、連携し未来へ



大幸グループは1994年、つながりの強い企業の大同団結と、その資質向上を目指して「大阪ベントナイト事業協同組合 環境対策協議会 (KTK)」を発足させました。現在、同組合の施設利用企業やこの活動に賛同する企業など、108社 (2019年12月現在) が会員として参加。その多様な力を集約して、環境問題や廃棄物業界の課題を共有し、会員の技術・知識、モチベーションの向上に取り組んでいます。また、地域社会を含むステークホルダーの皆様への貢献と連携を目指して活動を続けています。

活動内容

● 新年研修会・互礼会



新年互礼会

2019年：奈良県明日香村村長 森川 裕一氏 講演
・テーマ「明日香村の未来戦略」

● 総会・講演会

2019年：大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科
花嶋 温子氏 講演
・テーマ「SDGsで生き残る」



花嶋 温子氏

● 夏期研修会

2019年：佐川事務所 社労士・行政書士
佐川 良明氏 講演
・テーマ「働き方改革に伴う法改正について」

● 施設見学会

2019年：(株)富山環境整備 (富山県)



● ゴルフコンペ等の懇親会



第20回KTK杯ゴルフコンペ

● 社会的活動等に寄与した会員企業および社員の表彰



- 地域貢献・コミュニケーション活動 (KTK 道路清掃美化キャンペーン等)
- 優良産廃処理業者の認定取得・許可申請支援
- ISO14001 認証

【環境対策協議会 青年部】

会員各社の次期社長候補を中心に構成する青年部では、研修会・見学会等の活動を通して、相互理解・共栄発展・モチベーションアップを目指します。

活動内容

研修会や行事を通じて学習・親交を重ねるほか、KTK 諸会合の設営など裏方の役目も担い、定期的下記活動を実施しています。

- 総会
- 研修会
2019年：事故安全教育の各社取り組みについて 発表し、情報共有
- 施設見学会
2019：アクアパーク松阪 「下水道処理施設」(三重県)
- ボウリング大会等の懇親会



危機管理体制と意識的行動で 安心・安全な労働環境と社会を構築



産業廃棄物の再資源化および適正処理という事業そのものが CSR 活動と不可分であり、CSV 活動と位置付けられる大幸グループ。安全衛生、危機管理、セキュリティといった分野においても積極的にコンプライアンス活動を展開、同分野における職員への教育と周知徹底に努めています。

労働安全衛生への取り組み

大幸グループの安全衛生への取り組みは、朝礼および報告・連絡・相談・確認の徹底、そして的確なマニュアルを基にした柔軟な現場対応、特に責任意識の徹底に重点を置いています。マニュアルがたとえ完成されたものであっても、それにすべてを依存するのではなく、臨機応変に対応する、体で判断することが危機管理には必要不可欠な要素であるからです。特に弊社の場合、プラント、各部署によって業務の事情や状況が異なり、各プラントだけでも取り扱う物や処理薬などにより対応すべき課題は違います。

具体的には、各プラントの処理業務に応じたそれぞれに求められる確で即時的な危機管理体制を目指し、作業着・靴・手袋・マスク等の着用といった基本的な作業姿勢、熱中症対策として水分・塩分補給の徹底、状況に応じた管理体制を、それぞれが目的意識を持って取り組んでいます。



リスクアセスメントの実施

業務には絶えずさまざまな危険因子が潜んでいます。その危険度に応じた評価を判定し、危険因子への対応策に優先順位をつけて意識的に確認しています。例えば、日々の朝礼時に KY (危険予知) ミーティングを実施しており、その日の作業内容から危険要因を

指摘し合い、危険を回避するための対策を決めてから作業に取り掛かっています。

営業活動の段階でも、危険を伴う処理の契約時には有害・危険物質の存在と状況の説明、受け入れ場所やドライバー等の条件に基づいた処理要領、危険度に応じた対応を確認しています。

また、事故発生時の各責任者の対応マニュアルについては、熟練の現場担当者が主体となって作成することになっています。

健全な経営を目指すコンプライアンスと教育

コンプライアンスは一般に法令順守と解釈されていますが、法の規定だけにとらわれ、厳密な規制のみ受容すると、企業としての発展性は損なわれる可能性があります。法の精神は守るべきものとし、単純な社内制度化でなく、組織が何をビジョンに機能しているのかを職員全体が理解して、未来につながる企業へと成長していかなければなりません。

企業活動を損なう反社会勢力に対する対応には、専従の担当者を配置して万全の態勢を取り、断固として非暴力の推進を進めています。また、グループ内の事例はもとより、ニュースの事件事例も参考として、職員への教育・啓蒙活動を実施し認識の周知徹底を図っています。特に車両運行では、ドライバーとしての責任と自覚を携え、組織の名前を刻んだ車両を運行しているということの重要性、状況に応じた適切な対応を行っています。

情報セキュリティ管理

情報通信の進化によって、情報管理の重要性が高まっています。情報漏えいに関しては、組織としても自己防衛の的確な形を作っていくことが必要となっています。個人情報保護法や法令による規制はあるものの、やはり職員全員が自覚と認識をもって大切な情報を保護しなければなりません。大幸グループは情報の管理をブロックごとに行い、その責任体系を明確にするとともに、必要な情報の共有という問題に取り組んでいます。

環境負荷に対する活動の目標と実績

地球環境の将来を考え、その基盤となる事業を推進する企業として、事業推進で生じるさまざまな環境負荷に対しては、全社、あるいは事業所、部署ごとでの課題を抽出し、年度ごとの取り組みを進めています。



2019年目標とその成果

| 部門 | 目的 | 目標値 | 具体的実施方法 | 評価 |
|----------|-------------|-------------|-----------------|------|
| 南港処理センター | 作業員の設備理解度UP | 社外研修の参加 | 設備に合わせた社内研修の実施 | ☆☆ |
| | 工業用水使用量削減 | 前年同月比1%削減 | 構内散水の節約 | ☆☆☆☆ |
| | 無事故無災害 | 1年間無事故無災害 | 毎月事故件数をゼロにする | ☆☆☆☆ |
| | 顧客満足度の向上 | 顧客クレームゼロ | 作業手順書の厳守 | ☆☆☆☆ |
| | 法規制の順守 | 排出基準値クリアー | pH監視強化 | ☆☆☆☆ |
| | 法規制の順守 | 受入基準値クリアー | 定期分析による監視 | ☆☆☆☆ |
| 泉プラント | 薬品使用量削減 | 前年同月比1%削減 | 長時間養成 | ☆☆ |
| | 品質確保 | 社内基準の順守 | 内部、外部分析 | ☆☆☆☆ |
| | 顧客満足度の向上 | 顧客クレームゼロ | 作業手順書の厳守 | ☆☆☆☆ |
| | 法規制の順守 | 搬入基準値クリアー | 品質検査の実施 | ☆☆☆☆ |
| 堺プラント | 再生品の品質確保 | 社内基準の順守 | 内部・外部分析 | ☆☆☆☆ |
| | 重機の延命化 | 重機の故障をゼロにする | 定期清掃、点検の強化 | ☆☆ |
| | 顧客満足度の向上 | 顧客クレームゼロ | 作業手順書の厳守 | ☆☆☆☆ |
| 本社 | 電力使用量削減 | 前年同月比2%削減 | 冷暖房温度設定管理 | ☆☆ |
| | 省資源 | 前年同月比2%削減 | コピー用紙使用量の削減 | ☆☆ |
| 運輸部 | 車輛の延命化 | 車輛の故障をゼロにする | 定期清掃、点検の強化 | ☆☆ |
| | 顧客満足度の向上 | 顧客クレームゼロ | 作業手順書の厳守 | ☆☆☆☆ |
| | 安全安定操業の確保 | 無事故無災害 | 作業指示書による順守事項の徹底 | ☆☆☆☆ |
| | 重機燃料使用量削減 | 前年同月比2%削減 | アイドリングストップ | ☆☆☆☆ |

★目標未達成 ☆☆☆目標達成 ☆☆☆☆☆目標達成

環境データ

泉プラント

中間処理場排出汚泥の化学測定結果

| 項目 | 単位 | 産業廃棄物法基準 | 最終処分場受入基準 | 測定値 | | |
|-------|------|----------|-----------|-------|-------|------|
| | | | | 最大値 | 最低値 | 頻度 |
| カドミウム | mg/l | 0.09 | 0.09 | <0.01 | <0.01 | 1回/月 |
| 鉛 | mg/l | 0.3 | 0.3 | <0.01 | <0.01 | 1回/月 |
| 6価クロム | mg/l | 1.5 | 0.5 | <0.05 | <0.05 | 1回/月 |
| 砒素 | mg/l | 0.3 | 0.3 | <0.01 | <0.01 | 1回/月 |
| セレン | mg/l | 0.3 | 0.3 | <0.01 | <0.01 | 1回/月 |
| 熱灼減量 | % | — | 15 | 10.3 | 1.8 | 1回/月 |

南港処理センター

| 項目 | 単位 | 産業廃棄物法基準 | 最終処分場受入基準 | 測定値 | | |
|-------|------|----------|-----------|-------|-------|------|
| | | | | 最大値 | 最低値 | 頻度 |
| カドミウム | mg/l | 0.09 | 0.09 | <0.01 | <0.01 | 1回/月 |
| 鉛 | mg/l | 0.3 | 0.3 | <0.01 | <0.01 | 1回/月 |
| 6価クロム | mg/l | 1.5 | 0.5 | <0.05 | <0.05 | 1回/月 |
| 砒素 | mg/l | 0.3 | 0.3 | <0.01 | <0.01 | 1回/月 |
| セレン | mg/l | 0.3 | 0.3 | <0.01 | <0.01 | 1回/月 |
| 熱灼減量 | % | — | 15 | 9.5 | 5.6 | 1回/月 |

物品のリサイクル活動

私たちは、資源の新たな可能性と価値の発見に取り組む組織として、身近なすべてのものを注意深く見つめ、再利用を図っています。

■使用済み切手の回収

使用済み切手も、キロ単位の重さになると換金され寄付に用いることができます。回収された使用済み切手は、ボランティア組織から切手商の手を経て、切手コレクターに渡ります。このことで新たな価値を生み出し、換金・寄付によって困窮する世界の人々の役に立ちます。



■ダンボールの回収

事務用品や衛生用品の梱包材など、事業活動で発生するダンボールも環境資源と考え、2014年からリサイクル活動をスタートしました。2019年(1月~12月)は150kgのダンボールを再資源化。備品・消耗品の荷ほどき後、ダンボールを所定の位置に運ぶという「ひと手間」の慣習化により、従業員の環境意識が高まりを見せています。



揺るぎない環境理念に根ざして

2019年（令和元年）度の大幸工業株式会社・大阪ベントナイト事業協同組合の環境方針が示され、地球環境の保全・循環型社会構築を目指して、事業の主軸を据え組織強化を図り、顧客サービスをさらに充実することが改めて確認されました。

年度方針・環境方針

社長方針

「尊重」

- 一、 お客様の意見を尊重する
- 一、 地域の皆様の言葉を尊重する
- 一、 社内でお互いの意見を尊重する

環境方針

私たちは、地球の環境保全、持続可能な社会の実現が人類共通の最重要課題であることを認識し、廃棄物の適正処理および、リサイクル技術及びリサイクルシステムの研究開発に取り組み、循環型社会の形成に貢献します。

ISOスローガン

「考えよう 一人ひとりができるエコ」

1 安全・安定操業の確保

- ① 教育・訓練を充実し個々のレベルアップを図る。
社外研修会等へ積極的に参加しレベルアップを図る。
- ② 事故・トラブルの原因を徹底究明し再発を防止する。
事故事例検討会を実施し類似事故の再発を防止する。

2 組織の強化と業績改善の推進

- ① 法令順守と情報公開
 - ・ ホームページ等での情報公開を推進し企業イメージのアップを図る。
 - ・ 電子マニフェスト化の推進等により法令順守意識の高揚を図る。
- ② 業績改善の推進
 - ・ 業績改善提案制度を推進し、全員参加で業績改善に取り組む。
 - ・ ISO活動を継続し、業務の標準化と文書管理の簡素化を推進する。
 - ・ リサイクル製品の品質向上を図り、顧客満足向上に努める。

3 「地球を大切に」を合言葉に、循環型社会の構築を推進する。

- ① 車両・重機の燃料効率の向上
エコドライブの実践 — 急発進・急加速防止・アイドリングストップ
「もったいない運動」の推進 — 紙使用削減・電力使用削減
- ② 地域との共存共栄の推進
・ 道路美化運動等に積極的に参加し、地域貢献に努める。

4 顧客サービスの充実

- ① 顧客ニーズに対応した処理システムの開発 3R、コスト削減等の顧客ニーズに即応したリサイクルシステムの開発を推進する。

環境マネジメント・認証取得

ISO取得状況

大幸グループは、総合的な企業風土、社員個人の社会的貢献意欲を含めたあらゆる側面において、「地球・産業・暮らしの調和」を目指しています。こうした指針により、業界に先駆けて ISO9001、ISO14001 の認証を取得し、環境マネジメントの社内体制を整備。リデュース・リユース・リサイクルの徹底を図るとともに、地球環境保全に役立つ技術と製品の開発に努めています。

内部環境監査

ISO9001、ISO14001 取得を早期に果たした大幸グループ各事業所では、環境マネジメントシステムの PDCA サイクルに基づき、内部監査を実施。環境実績の組織的・継続的な改善システム、実績向上の推移、法規制順守などに関する審査を実施しています。

外部環境監査

内部環境監査に加え、環境マネジメントシステムの有効性を確認するため、認証機関のオリオン・レジストラ・ジャパンによる監査を受けています。例年、審査結果をもとに指摘事項の改善を実施し、環境マネジメントシステムの有効かつ適正な運用によって認証登録を更新しています。

第三者意見

『製造業へ具体的に転換する』大幸グループを目指し決意に期待いたします。

2019 大幸グループ CSR 報告書では、廃棄物再生処理業から製造業へ具体的に転換するために SDGs(持続可能な開発) を活用することにより、CSR 活動テーマと目標の再確認が行われています。特に、CSR 報告書を SDGs の学習教材として活用する新たな試みがされています。

また、地震や台風など予期せぬ災害に備えた BCP (Business Continuity Plan) の具象化のために、津波避難ビルを兼ねた車輛センターの完成が報告されています。これは、大型立体駐車場、自家給油所、整備工場、事務所棟で構成されており、地域合同訓練も視野に入れて実践的な活動を展開し、地域と共に防災に務める体制の維持・向上を目指しておられます。これら、SDGs 達成を目指した教育や、災害に備えた投資は、廃棄物再生処理業から製造業への転換と、製造業などの『動脈産業』の事業活動に影響を与えない強い決意が感じとれます。

そして、CSR 報告書では、従業員研修などの企業内教育、市民参加の寄せ植え教室などの文化活動、そして近

畿大学生のインターシップや、新北島中学校生徒の職場体験による学校教育まで、地域貢献への参加や社内環境教育の拡充、光る泥だんご教室など環境教育の推進といった環境事業を理解する成果が読み取れます。国連の SDGs だけにとらわれず、環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) を観点に地域に密着した活動の継続もなされており、さらなる取り組みを期待します。

最後に、一人ひとりが、高い社会貢献意識を備え、日々成長できる職場環境を目指していることは、循環型社会において、ますます必修不可欠で、健全で、強い組織作りの要になると考えられます。大幸グループの更なる発展に期待します。



京都大学大学院 地球環境学堂 教授 勝見 武

CSR 報告書を SDGs4.7 の教材として活用する教育プログラム (ESD)



1. 教育プログラム (ESD) の流れ

学習を始める前に、CSR(企業の社会的責任)、SDGs(エス・ディー・ジーズ)、国連責任銀行原則 (PRB)、ESG 経営、CSV(共通価値の創造 :Creating Shared Value) のキーワードを予習します。まず、「CSR 報告書」と「SDGs17 目標 &169 ターゲット解説書」と「専用の記入用紙」を準備します。「CSR 報告書」などは、大幸グループのホームページからダウンロードできます。次に、「CSR 報告書」のトップメッセージから、会社全体、業界全体、長期的な視座を読み取ります。次に、各ページや、各項目を環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) に分類し、E・S・G の観点で書かれているかチェックします。そして、SDGs17 目標の 169 ターゲットを読んで、CSR 報告書の各ページや、各項目に書かれている内容 (語句) と紐づけ (チェック) します。CSR 報告書は、必ず E・S・G の観点で書かれていますが、必ずしも、SDGs で紐づけられていなくても構いません。



大幸 QR コード



「CSR 報告書」



「SDGs17 目標 &169 ターゲット個別解説書」

2. 教育プログラム (ESD) の狙い

最後に、問 1 から問 3 の回答を記入します。予習で 30 分、SDGs チェックで 30 分、問 1~問 3 の回答に 30 分。合計 90 分の学習時間となります。SDGs169 ターゲットから学習者が環境問題を知ることが重要です。また、学習者自身のオリジナル (オンリーワン) の CSR (社会貢献) 活動と、持続可能な開発目標 (SDGs) と、アイデア (CSV) を探ることが、教育プログラム (ESD) の狙いです。

問 1, あなたが取り組みたいと思う持続可能な開発目標 (SDGs) は、具体的にどのようなことですか?

問 2, あなたが取り組みたい CSR (社会貢献) 活動は、具体的にどのようなことですか?

問 3, 地盤環境問題などの課題を解決するために、なにかアイデア (CSV) があれば述べてください。

問 1~問 2 のアドバイス:

「持続可能」とは、例えば、プラス側とマイナス側があるサイコロを、毎日プラス側の賽の目 (さいのめ) が出るように回し続けることです。「貢献」とは、例えば、裏表 (うらおもて) があるコインを、常に相手に、表 (ポジティブ) 向きにして与え続けることです。

大幸グループ事業概要

大幸工業株式会社

本 社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

東京支店 〒105-0003 東京都港区西新橋1-18-6
クロスオフィス内幸町12階
TEL 03-5501-1370 FAX 03-5501-1371

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
浚渫工事の施工及び請負 流動化処理土の販売
一般貨物自動車運送事業 特定旅客自動車運送事業
土木、建築工事の施工及び請負 各種清掃業

大阪ベントナイト事業協同組合

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0003 FAX 06-6686-0004

汚泥・廃酸・廃アルカリの中間処理、流動化処理
組合員の取扱う汚泥の共同処理
組合事業の知識普及をはかるための教育・情報提供

堺大幸工業有限会社

〒590-0063 大阪府堺市堺区中安井町3-4-10
TEL 072-238-3059

建設汚泥の収集運搬
土木、建築工事の施工及び請負

大幸工業株式会社 泉佐野

〒598-0007 大阪府泉佐野市上町2丁目2-11
光ビル2階
TEL 072-429-9147 FAX 072-429-9146

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
浚渫工事の施工及び請負 一般貨物自動車運送事業
ビルメンテナンス業

北部大幸工業有限会社

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-5-13
TEL 06-6226-0882

建設汚泥の収集運搬土木、建築工事の施工及び請負

有限会社大幸リース

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0005 FAX 06-6686-0006

機械のリース
運搬車両のリース



大幸工業株式会社

本 社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002
東京支店 〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目18番6号
クロスオフィス内幸町12階
TEL 03-5501-1370 FAX 03-5501-1371

大阪ベントナイト事業協同組合

本 社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0003 FAX 06-6686-0004



